

Title	E. FORUM: 全国スクールリーダー育成研修 2008年度
Author(s)	西岡, 加名恵
Citation	子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして (2012), 活動報告書(2007-2011年度): 76-77
Issue Date	2012-03-30
URL	http://hdl.handle.net/2433/179723
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

E. FORUM 全国スクールリーダー育成研修 2008年度

はじめに

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー（教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど）の育成・力量向上が急務となっている。そこで、京都大学大学院教育学研究科では、2006年度、全国の希望者に研修機会を提供するE. FORUM（教育研究開発フォーラム）を設立した。

E. FORUMでは、「全国スクールリーダー育成研修」を実施するとともに、全国の教師たちの知見を共有・蓄積するシステムを開発している。E. FORUMが行っている活動の全体構造は、図1に示した通りである。

以下、それぞれの活動について報告する。なお、それぞれの研修評価アンケート結果の詳細については、E. FORUMホームページを参照のこと（<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>）。

1. 「スクールリーダー育成のための基礎講座」

「スクールリーダー育成のための基礎講座」は、基礎的内容についての共通理解を図るための研修である。2008年度は、下記の内容を提供した。

◎【前期集中研修】8月20日(水)～22日(金)

- 「学校の組織的対応—通常の運営と危機管理—」（教授・高見茂）
- 「学習指導要領改訂—教育課程改革と教師の役割—」（教授・田中耕治）
- 「教職の専門知—学校を巡る状況変化を踏まえて—」（教授・楠見孝）
- 「教育関連法規の改正—教育改革の動向—」（准教授・金子勉）



- 「カリキュラム設計—パフォーマンス課題とルーブリックの作成—」（准教授・西岡加名恵、助教・中池竜一、助教・赤沢真世）

◎【後期集中研修】12月26日（金）

- 「カリキュラム設計—パフォーマンス課題とルーブリックの作成—」（准教授・西岡加名恵、助教・中池竜一、助教・赤沢真世）

【前期集中研修】については東は栃木から西は福岡まで1都2府14県から63名の方に、【後期集中研修】についても東は栃木から西は福岡まで1都2府13県から45名の方にご参加いただいた。研修評価アンケートでは、「たいへん分かりやすく役に立つ内容でした」、「前向きな方が多くて交流によっても大きな力を得ることができる」といったコメントが寄せられた。

2. 「学校教育研究フェスタ」

「学校教育研究フェスタ」（以下、「フェスタ」）は、最新の政策動向や研究成果について情報提供を行うとともに、新旧の受講者が一堂に会して交流する機会を提供するものである。

2008年度は8月23日に開催し、講演「カウンセリング・アプローチ子どもと保護者の心を理解する—」

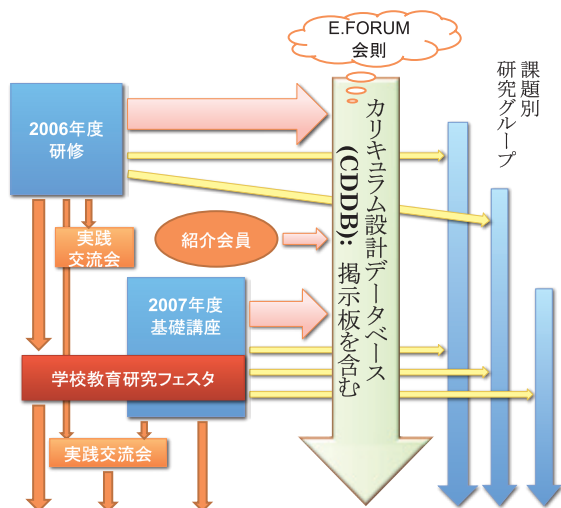


図1. E. FORUM全国スクールリーダー育成研修の全体構造



(教授・桑原知子)を行った。また、「パフォーマンス課題への取り組み」をテーマとして、加西市立北条小学校・教諭 奥田成美先生、加西市立下里小学校・教諭 中井俊尚先生、京都市立衣笠中学校・教諭 森千映子先生、福井県立若狭高等学校・教諭 渡邊久暢先生に効果的な指導方法を中心とした実践報告をしていただいた。なお、パフォーマンス課題とは、リアルな文脈において知識やスキルを使いこなすことを求めるような総合的な課題であり、思考力・判断力・表現力等の評価に適している。さらに、受講者の関心に応じてグループに分かれ、実践交流を行った。



東は東京から西は福岡まで、1都2府11県から46名の方の参加があり、盛況のうちに終えることができた。研修評価アンケートの中では、桑原教授の講演について「こんな面白いカウンセリング領域の講義を聞いたのは初めてでした」、「今後の生徒指導に役立たせていきたいと思います」、実践報告について「次につながるいい刺激をいただきありがとうございました」、「『フェスタ』全般について『『そうか！』そういう考え方もあるのか』と世界が広がった感じがしました」といったコメントをいただいた。

3. 「カリキュラム設計データベース (CDDDB)」

E. FORUMでは、受講者が開発した様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「カリキュラム設計データベース (CDDDB)」を開設している(図2)。CDDDBの開設にあたっては、情報を共有するためのルールを定めたE. FORUM会則を作成した。また、2007年8月には講師や受講者の紹介者も登録できる「紹介会員制度」を立ち上げた。

2009年2月20日現在、CDDDBには、ユーザー253名、単元233件(うち143件公開)、評価方法(課題)242件(うち152件公開)、ループリック153件(うち81件公開)が蓄積されており、会員の利用に供している。また、CDDDBには掲示板も開設されており、日常的な議論が行われている。

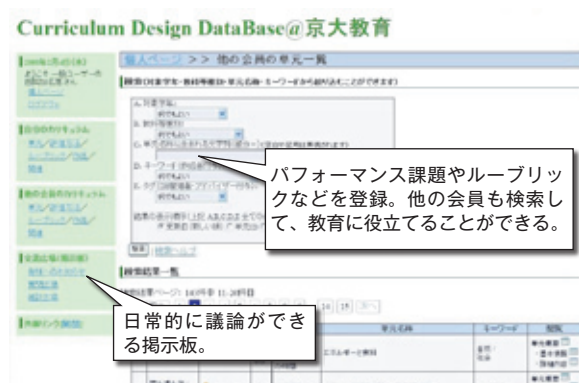


図2. CDDDBの検索ページ

4. 「実践交流会」と「課題別研究グループ」

E. FORUMでは、「基礎講座」修了者間の交流を深めるとともに、継続的な指導・助言を提供するため、年1～2回の「実践交流会」を行っている。2008年度は3月28日に、参加者が実践の計画や報告を持ち寄る実践交流と、講演「アメリカの教師教育改革について」(福井大学教育地域科学部・講師 八田幸恵先生)を予定している。

また、研修内容をさらに発展させるため、受講者の有志と講師との間で共同研究開発を行う課題別研究グループの活動も行っている。2008年度は、京都市立衣笠中学校との連携により課題「ループリックを指導の改善に活かす」を探究し、成果を公開研究会(11月7日)で発表した。また京都府乙訓教育局との連携により課題「教育局を基盤とする『パフォーマンス課題とループリック』の開発」に取り組み、インターネットニュース「乙訓教育局発! Monday Morning」の番組として、用語解説の動画も作成した。その詳細については乙訓教育局ホームページ(<http://www.kyoto-be.ne.jp/otokuni-k/>)、およびE. FORUMホームページ(http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/words_kaisetsu.html)を参照されたい。

(文責: 西岡 加名恵)